

令和7年「20歳のつどい」実施報告

1 趣 旨 人生の節目を迎える20歳の青年の門出をともに祝い励ます行事を通じて、青年が大人になった自覚を持つことのできる機会ならびに地域の人々との交流を深める機会を提供し、もって青年教育の推進と地域の活性化を図る。

2 日 時 令和7年1月12日（日）14時～15時30分

3 参加人数 ・20歳の対象者 64名（旧小糸中卒：51名 旧清和中卒：13名）
※周東中学校区の参加率82%

・来賓及び参列者 約100名

【内訳】来賓16名、主催者5名、保護者約80名

4 会 場 周東中学校 体育館

5 内 容

式典の部【進行：実行委員2名】

- (1) 開会のことば【実行委員】
- (2) 国歌斉唱【伴奏：実行委員】
- (3) 君津市民歌斉唱
- (4) 式辞 君津市長
- (5) 祝辞 市議会議員
- (6) 来賓紹介及び参列者紹介【実行委員】
市議会議員・自治会連絡協議会・社会教育委員
公民館運営審議会委員・小中学校の恩師等

(7) 祝電披露【実行委員】

(8) 20歳の抱負【20歳のみなさん4名】

(9) 実行委員紹介

(10) 実行委員長あいさつ【実行委員長】

(11) 閉会のことば【20歳の対象者】

交流の部

20歳のビンゴ

6 その他

- (1) 実行委員会：5月末から式典当日まで10回実施（総計30時間）
- (2) 記念品：集合記念写真（希望者による実費負担）※50名が購入
- (3) 掲載媒体：小糸公民館だより254号、館報「せいわ」394号、広報きみつ2月号

7 事業総括 - 成果と課題 -

【成果】

- ・両地区の対象者で実行委員を組織し、双方の地域行事（文化祭）に参加することで、20歳の世代が両地区に関わり、地域住民と交流する機会をもつことができた。
- ・実行委員会や文化祭への参加、式典当日の運営を通して、「実行委員」「20歳」としての姿勢や自覚が少しずつ育まれていく様子を窺うことができた。

【課題、次年度へ向けて】

- ・文化祭で得た収益はビンゴ大会の景品代にあて、景品の選定は実行委員が行った。流行を捉えセンスも良く、20歳の対象者が喜ぶ品物であった。一方で、記念品は他地区の取り組みも考慮し、記念品（集合写真）は希望者による実費負担とした。適当な記念品の品物・金額、文化祭収益の使い方について再考の必要がある。
- ・両地区の取り組みの違いから、参列者の中に内容や時間に物足りなさを感じる人がいた。また、式典全体の時間もやや短かった。次年度に向けて、式典の時間の調整や、20歳の対象者1人1人にスポットが当たるような工夫を図っていく。

小糸公民館 令和6年度事業総括

1 重点取組分野 子育て支援関連事業の充実化

当館は市内公民館でも数少ない子育て支援施設「プレイルーム」を有し、広場サポーターが勤務している。また管内には保育園や小中学校、児童養護施設がある。当館の特徴を活かし、関連機関との連携を視野に入れながら子育て支援関連事業の充実を図る。

2 下半期の事業展開

(1)「小糸家庭教育学級」と「親子教室」の合同事業

趣 旨：体験活動を通して、子どもと保護者間の交流、様々な家族間の交流を図る。

実施日：2月1日（土）午前10時～正午

テーマ：節分を楽しもう♪

内 容：太巻寿司・恵方巻作り、節分の工作、謎解き・鬼退治ゲーム、豆まき

講 師：小糸婦人会オリーブの会

会 場：小糸公民館 講堂、調理室、屋外ほか

参加者数：小糸家庭教育学級 13組 43名（乳幼児22名、保護者21名）
親子教室 8組 43名（小学生30名、保護者13名）



【成果・課題】

- ・ 合同で実施したことで、①普段は顔を合わせることもない世代間の交流を図ることができた ②父親の参加も得ることができた ③参加人数が多く、家庭では体験できない規模で活動することができ、参加者の満足度が高かった。
- ・ 参加人数と対象者について課題が残る。人数が多いことで賑やかになる一方、活動内容が表面的になり深めていくことが難しい。また、乳幼児～小学6年生までと子どもの年齢が広くなり、年齢で分けた活動をせざるを得ない。今後は、事業の適正規模を設定した上で運営に臨む。

(2) 参加しやすい環境づくりへの工夫

テーマ：「夜Cafe～知りたい！思春期の子の気持ち話したい！大人の気持ち～」

日 時：2月26日（水）午後7時～午後9時

会 場：コイトコーヒー

申込者数：26名【内5名は運営協力者。2／13時点】

成果と課題：第4回公運審会議（2／28）当日に報告



3 全体総括

(1) 実施状況 [2 / 12 時点]

	小糸家庭教育学級	小糸親子教室	プレイルーム事業
対象	乳幼児から小学生の保護者	小糸地区の親子	※
主な内容	・ ヨガ、モルック ・ イヤイヤ期 ・ 調理実習など	・ スポーツレク ・ パン作り体験 ・ 移動教室など	・ 文化祭企画 ・ ボードゲーム大会 ・ DIY、寄せ植えなど
回数／年間	11 回 内 2 回は番外編	5 回	9 回
申込人数	24 組 44 名 内訳：保育児 20 名 保護者 24 名	14 組 50 名 内訳：子ども 35 名 保護者 15 名	※
延べ参加者数	372 名	214 名	756 名



家庭教育学級 [12/10]
骨格診断でオシャレを楽しむ



親子教室 [12/21]
クリスマスリース作り



プレイルーム事業 [12/26]
Let's Play 新春を彩る寄せ植え

(2) 成果と課題・今後に向けて

【成果】

- ・ 小糸家庭教育学級、親子教室は、他地区（他館）と比べて実施回数、申込人数、参加者数が多く、子育て支援に寄与する事業を実施することができた。
- ・ 管内にある児童養護施設の子どもが、日常的に「プレイルーム」を利用したり、親子教室参加の 1 / 3 を占めていたり、関係性を築くことができている点も成果の 1 つである。

【課題・今後に向けて】

- ・ 上記は成果である一方、①当館内での合同実施や他地区（他館）との交流事業が困難 ②需要に対して十分に対応できない等の新しい課題を生んでいる。対象者と定員を見直し、適正規模を再設定する必要がある。
- ・ 当館全体に占める子育て支援事業の実施回数、予算支出が多い点も懸念事項である。今後、職員体制の改編や予算縮小により事業見直しが求められるが、市民サービス（子育て支援、学びの場の提供）が低下することのないよう工夫を図る。

清和公民館 令和6年度事業総括

1 重点取組分野 「地域活性化・にぎわい創出」

2 取り組み内容

●じぶん時間を楽しむ講座「米粉で簡単ナチュラルおやつ作り」

7月～9月 3回実施 参加者：15名

●里山で始める私のライフワーク～自分サイズのカフェ・開業～

12月実施 参加者：22名

●地域団体と連携・共催の事業

- ・NPOいきいき清和との連携事業「体験せいわ学」通年

14回中12回実施（うち共催6回）延べ参加者数：138名

- ・コミュニティ清和委託・連携事業「デジタル木工機器活用WS」

10～11月 5回実施 参加者：5名

→関連講演会「デジタルなものづくりから引き出すワタシと清和の可能性」

8月実施 参加者：17名

●地域活性化センターの側面支援

- ・各種委託事業や関連支援事業（清和の暮らしとシゴトづくり実践事業、サイクリストなど立寄り拠点強化事業、地域魅力発信マップ作成事業ほか）

- ・ふもとの茶屋 12月～ 26回 協力事業者9団体

- ・実証実験として、おらがわ敷地内でのキッチンカー・移動販売車の販売事業者を募集中 2月～

- ・カインズとの連携事業「スプリング・フェスティバル」の開催

3月23日実施予定

3 成果と課題・今後に向けて

〔成果〕

- ・清和公民館のこれまでの積み重ねを活かすことで、地域内外の方の協力を得ながら、多様な活動を展開し、着実に関係人口の増加につなげることができた。



3/23 にデジタル木工機器のデモンストレーションを予定。



循環学校の参加者の中には、その後の清和での活動を積極的に検討してくださっている方も。



土日やイベント開催時は、サイクリストが多く訪れる。



・「里山で始める私のライフワーク～自分サイズのカフェ・開業～」や「ふもとの茶屋」の実施により、交流スペースの利活用促進を図り、にぎわい創出につながるとともに地域の経済循環に寄与することができた。

- ・サークルの活動紹介を館報に掲載することで、サークルの見学者が増加。
公民館で把握しているだけでも4つのサークルに新規加入の申込があり、既存サークルの活性化につながったほか、施設利用の例示としての効果もあり、新たな施設利用のきっかけになっている。



おらがわ3階にも館報せいわサークル情報一覧を掲示し、コワーキングスペース利用者への周知を行っている。

〔課題〕

- ・「じぶん時間を楽しむ講座」については、引き続き活動を希望する声はあったが、人数の関係でサークル化までは至らなかった。今後も需要のある活動について検討し、サークル化を目指した取組を進めていきたい。
- ・複合施設として新しい動きの多いソフト面や新たな機能を持ったハード面共に、地域内外への周知が十分とは言えないため、積極的な周知や取組の促進が必要。引き続き、各種広報媒体や講座等の機会を活用し周知を図りたい。

4 その他事項

- ・今年度重点目標に関連し、清和こども園との日常的な連携について、子どもたちの作品の掲示のほか、日常的な活動施設の提供、保育園留学受け入れ時の地域イベント情報の提供などを行っている。複合施設であることの強みを活かした事業展開については未成熟なため、検討を進めていきたい。
- ・「大人の学校」でモルッククラブを3回実施したほか、多世代交流を目的に小学生との活動を行ったことにより、旅名の方やシニアクラブからモルックの出張レクチャーの依頼が寄せられており、次年度の出張型高齢者事業の足掛かりにした。



11/20 多世代交流グラウンドゴルフ大会が天候不良のためモルック大会に変更して実施。

小糸公民館 令和7年度事業の方向性について

1 背景・趣旨

令和7年度、戦後80年を迎える。小糸公民館には、平和への願いを込めて作られたタイル壁画があるが、活用や今後の保全方法についての検討を控えている。そこで、戦後80年の節目にあわせ、当館の壁画や地域に遺る史跡に関する学習の機会を設けることで、平和・戦争に関する理解を深める。

2 令和7年度事業の重点取組テーマ

平和・戦争に関する地域学習

3 取組内容 ※詳細は令和7年度第1回公運審の場で協議予定

(1) 講座（学習会）の実施

当館の壁画や地域の史跡を実際に訪ねたり、関係者から実際に話を伺ったりといった活動を通して、平和や戦争への理解を深める機会を提供する。

【実施期間】5月下旬～10月（内2～3回の連続講座を想定）

【対象】一般成人 10～15名程度

(2) 第54回小糸地区文化祭特別展示

上記の講座（学習会）で得られた内容をまとめ、第54回小糸地区文化祭で特別展示として企画する。地域住民や来場者などより多くの方に対して、本取組みの周知を図るとともに、平和や戦争への理解を深める場を作る。

【実施期間】10月25日（土）・26日（日）※予定

(3) 教育講演会の実施

講座（学習会）の内容や文化祭特別展示の流れと連携して「教育講演会」のテーマに取り上げることで、平和に関する視点を後世に伝えていく。

【実施日】11月下旬～12月上旬

【対象】周東中学校全校生徒、一般市民

【備考】小糸地区青少年健全育成協議会、清和青少年健全育成連絡協議会
小糸公民館、清和公民館による共催実施



1971年制作

原画作成者：水戸敬之助氏

縦2.6m×横6.7m

清和公民館 令和7年度事業の方向性について

1 背景・趣旨

昨年1月に「おらがわ」がオープンし、2年目を迎えるにあたり、以下の3点に留意し、公民館事業全体の見直しを図る。

- ・「おらがわ」に位置づく公民館としての強みを活かした取組を行う
- ・地域団体と連携した事業展開により多様な取組を行う
- ・重点取組分野に関する取組を行う

重点取組分野に関して、「地域活性化・にぎわい創出」については、「おらがわ」の使命として継続しつつ、少子高齢化が顕著に進む地域であることから、年をとっても豊かに生きられる地域環境の醸成を図るため、新たに「高齢者のウェルビーイング」を重点取組分野とし、清和地区の人口の大半を占めるシニア世代の課題についての学びやシニア世代が活躍できる機会づくりに努める。

2 令和7年度事業の重点取組テーマ

「地域活性化・にぎわい創出」〔継続〕

「高齢者のウェルビーイング」〔新規〕

3 取組内容

(1) 「地域活性化・にぎわい創出」に関する取組

- ・地域のにぎわいづくりにつながるような新規サークルの立ち上げを念頭に「じぶん時間を楽しむ講座」を実施し、地域の関係人口・にぎわい創出につなげる。【実施時期：6～7月】
- ・デジタル工作機器の活用講座の実施により、地域資源の活用と関係人口創出を目指す。
- ・まちづくり協議会である「コミュニティ清和」の伴奏支援やNPO法人いきいき清和など、地域団体と連携した取り組みにより地域の活性化を図る。

【通年】

(2) 「高齢者のウェルビーイング」に関する取組

- ・関連講演会の実施により課題に対する理解を深める。【実施時期：6月】
- ・「おらがわ」を会場としたサロン形式の事業の実施。【実施時期：6月～2月】
- ・地域での自立的な集いの機会づくりにつながるような出張型事業の模索。

【通年】

- ・既存事業を含めた多世代交流の機会づくり。【通年】